

「寺田寅彦の銅像」の完成に寄せて

中谷宇吉郎雪の科学館友の会会長 神田 健三

寺田寅彦博士の人間像が見事に表現された銅像が完成し、新設の「オーテピア」(図書館・科学館)前への設置が実現したとの報に接し、寅彦の薫陶を受けた中谷宇吉郎の館の友の会を代表して、心よりお慶び申し上げます。

この設置により、多くの市民が日常的に寅彦の銅像のある空間に身を置き、どんな人だったのか、何をした人なのかと関心を抱くことになり、寅彦の随筆をひもとくことにも繋がるのではなかろうかと思われます。そして、現代の私たちに貴重な示唆を与え続ける、寅彦の自然や人間への探究と思索の真価が広く認識されていくことを期待したいと思います。

銅像の制作と設置のために、寅彦の館の友の会の山本健吉会長様をはじめ、役員の皆様が大きな役割を發揮され、高知県の文化関係の方々との良い関係を築いてこられたことに敬意を表したいと思います。

引き続き、寅彦と宇吉郎の両館の友の会の交流や協力をお願い申し上げます。



寅彦の情報あれこれ

【私の好きな寺田寅彦の言葉】

整理は百年の後でも出来る。資料は一日おくれたら永久に失われる。

「埋もれた漱石伝記資料」
(全集第1巻 338頁)

この言葉のあとに、「私はこの機会に夏目先生に関するあらゆる隠れた資料が蒐集され記録される事を切望して止まないものである」と続く。多産な寅彦の文筆活動を締めくくる最後の作品の結びの言葉である。このことは寅彦資料についても云い得ることだ。

宮城 大森 一彦

【高知だより】

高知で「寺田寅彦の銅像」について書かれた2件を紹介します。

☆高知県美術家協会会報「杜」No.94 編集後記 (2018年8月30日発行)

オーテピア出現で一変した追手筋を車で通ると不意に目に飛び込んできた寺田寅彦像。普段の目線の通り沿いにさりげなく立つその像に私はひどく興奮した。明るくおしゃれな一角に文化の香りが漂っている。「ここは、東京、青山か!!」

少し遠くから指で像を隠して、比較して欲しい。そこに彫刻があるだけで、数倍も品格が増す。公園や庭ではなく、多くの人